

貸借対照表

区 分	金 額	区 分	金 額
固定資産	74億 961万円	固定負債	40億6,318万円
		企業債	40億6,318万円
有形固定資産 (建物・配水管・水道メーターなど)	74億 961万円	流動負債	4億1,755万円
		企業債	2億6,904万円
		未払金	7,934万円
流動資産	6億9,449万円	前受金	16万円
		引当金	902万円
現金預金	6億1,709万円	その他流動負債	5,999万円
未収金 (未納水道料金) ※貸倒引当金を除く。	7,604万円	繰延収益	7億5,210万円
貯蔵品 (棚卸資産)	133万円	長期前受金	16億8,332万円
その他流動資産	3万円	収益化累計額	△9億3,122万円
資 産 合 計	81億 410万円	資本金	22億2,078万円
		剰余金	6億5,049万円
		資本剰余金	1,964万円
		利益剰余金	6億3,085万円
		負債・資本合計	81億 410万円

貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするため、企業が保有する

財産の状況



左の表は、平成28年3月31日現在の水道事業の貸借対照表です。

全ての資産や負債、資本を示したものです。

借入金状況



安定した水の供給を維持するためには、浄水場や配水管などの水道施設を常に整備する必要があるほか、水道施設には更新時期があるため、計画的に更新していく必要があります。

この整備には、多くの資金が必要となることから、国などから資金を借り入れし、水道料金の一部を返済に充てています。水道事業では、この借入金を『企業債』と呼んでいます。

また、この借入金は、財政的負担の軽減や、将来利用する市民にも公平に負担してもらうため、長期の計画で返済しています。

平成27年度末現在で企業債の残高は、貸借対照表のとおり43億3,222万円、平成16年度以降減少を続けています。企業債を給水人口1人当たりに換算すると8万8千579円になります。



水道施設整備の状況



平成27年度に実施した主な工事は次のとおりです。

区分	工事内容	事業費
送配水管新設工事	水道水の安定供給を図るため、幹線となる配水管などの設置工事を行いました。	867万円
送配水管改良工事	赤水発生解消や地震などの災害に強い水道施設の整備を図るため、老朽化した配水管の改良(更新)工事を行いました。	1億5,963万円
送配水管移設工事	道道の工事などに伴い、配水管の移設工事を行いました。	386万円
水道メーター取り替え工事	計量法で定められている水道メーターの取り替え(8年ごと)の工事を行いました。	3,240万円

問い合わせ

水道グループ

(85)5501